

林の組

及川ふみ



豫定

月、かたつむり、てんとう虫、かめ、お玉じやくしの

ポートルレース

火、ポートルレースのつどき

水、唱歌、遊戯(大きなお日様)かけくら(本校の運

動場にて)

木、自由畫 かたつむり、てんとう虫、かめ、お玉じ

やくし、金魚。

金、お話(てんとう虫)きりがみ(てんとう虫)

土、ぬりゑ、ポートル 遊戯(大きなお日様)

五月二十三日(月)

今日の豫定

粘土でかたつむり、お玉じやくし、てんとう虫、かめを

作つてそら豆の舟にのせる。

準備

そら豆は出来るだけよく實の入つたのを一人に二本つづ用意して五百匁十五錢でかつておいた。

かたつむりは、先週の金曜日に組中の幼児で花壇の中から採し出したのが三四十も硝子の飼育瓶に入れて毎日お部屋においてある

かめとお玉じやくしとは二週間ほど前から池の組からかりてきて、かたつむり同様おいてある。

てんとう虫もあぶら虫と一緒に瓶に入れてある。

八時半頃お部屋に入つてゆくともう二人の幼児と實習科生とが何かお話をしてゐた。

今日はお庭で粘土。つくるものは實習科生一人づつを中心としてのグループで四種ある。A組は龜、T組はお玉じやくし、組はかたつむり、F組はてんとう虫。

てんとう虫や、お玉じやくしはそのまゝにして金魚、かたつむり、かめの瓶を流しにもつていつてどれも綺麗なお掃除する。

お椅子をお庭に運ぶもの粘土板や瓶を運ぶもので大人も幼児も一しきり忙しい。

新緑の藤棚の下はほんとに心地よい。四所でそれく〜つくり出した。おくれて来た人の世話や、齒の治療の事で看護婦さんとうち合せてしてかたつむりのそばへ来ると大分出来て居るので大急ぎでそら豆のさやをとりにお部屋へいつてお机へ分けた。

船にするにはそら豆を上手にわけなければならぬので一つは實習科の方にもつてもらつた。

この一つの机の細かい観察は實習科生にかいてもらつた。

今日の粘土はお外でするので外へ出るのが一番好きな多一郎さんは大喜びである。私のところはおたまじやくしを拵へる、最も嬉しさに作り始めたのは多一郎さんである。直に四つも作つてしまつた。尾があつて足のあつるもの、尾のないもの、足のまだないお玉じやくし等。

最後に残つて居る粘土で大きな〜かへるを作つた。ツキ子さんは何時も上手に何でも作るのに今日はどうしたのか何もつくりなない席を立つて私のところへくついつて来るやつと出来たのは大きなまり位のおたまじやくしに小さい尾のついたものである。それから「今度はもし小さいのおつくりなさい」といふとそれを十位にちぎつてくちやく〜のお玉じやくしにしてしまつた。チズ子さんは小さい尾の長いのを二つ。幹ちゃん直ぐに粘土が出来る様になつて可愛らしい足の生へてないのを三つつくつた。國太郎さんは足のあるお玉じやくし平たいもの。國太郎さんはよく平つたいものを作る。文江さんはいくら粘土を手にもたせてもしないと首を振つてト横を見つめて居る。おたまじやくしが出来てからそら豆の莢で舟をつくつて出来たおたまじやくしをのせた。幹ちゃん自分でもこしらへたのをのせないでお舟だけをギチラ〜とゆりうごかしてよろこんで居る。今度は莢ごと一つ一つお豆を渡して自分でむかして見たツキ子さんは上手にむいた、幹ちゃんは一寸破れたといつて泣き聲を出す。皆がこのお豆をどうするのときく、一面白いもの

を作つてあけるのですよ」といふと多一郎さんは早く
く〜とせがむ。

大きな彌次郎兵衛が出来てよろこんで可愛い指の上で
おどらせて居る。

急に雨がふり出してお部屋に入つてしまつた皆が大喜
びした彌次郎兵衛も文江さんはいらぬといふ。豆の舟
にのりきれないのをせるのに大きな木のお舟をつくつ
た子供のかいした輪廓をミシン鋸で先生が切つて下さる時
も芳久さんは木片を誰かれに分けて居る、多一郎さんは
土曜日に拾つた汚い木片を大事にして持つてかへつたが
今日は「あんなものいらん」のださうである。多一郎さ
んはなか〜彌次郎兵衛が氣に入つたので、木片など物
の数でもない。先生が彌次郎兵衛に顔を墨でかいて下さ
つてからは益々大喜びで面白いなあ〜と盛にくりかへ
して居る。うまく出来たら御喝采をとはいやいでゐるそ
していろ〜のところへのせてやつて居る。月子さんは
お家へかへると一つだと赤ちやんがほしがかるから二つ持
つてゆくといふ。幹ちやんはお豆を亂暴に扱ふので何邊
も〜豆がとれて穴だらけになつてしまつた。

彌次郎兵衛でながく遊んだので少々お辨當の時がおくれ
て皆がおながすいたと大さわぎ。

今日はT組と一緒に食事をしたとなりのF子さんはまた
一人でお辨當箱からお茶碗へ入れられない。

食後のうがひや歯みがきも上手になつた。

雨がやんで庭で遊べた。

五月二十四日（火）

今日の豫定

ボートの旗づくり

粘土の追加製作

大きな木の舟に旗をたてる支度をしてゐるうちに二人三
人とだん〜に幼児がぐる。

きのふ作つた舟を一人〜にくばつて色紙の箱とヒゴと糊
を用意して旗をつくらせた。

その間に四人の人に特に大きい旗を注文してきつてもら
ひ大きな舟にたてた。みどりはかたつむり。ももいろはか
め。黄色はおたまじやくし。水色はてんとう虫。

舟なしで居た大きな龜は六匹でお舟が満員になつた。か

たつむりも餘分に澤山出来てゐてすぐ舟が一杯になつたが
てんとう虫とお玉じくしは餘分にはちつともなかつた。

てんでんに小さいお舟に旗をたてゝ大きな舟のそばへか
ざつてゆく出来上つた人にたのんでんとう虫とお玉じや
くしをこしらへてもらふことにした。

粘土の板を洗つたり、きりがみの後始末をしてさきに外
に出た人達を氣にして窓から見ると少し形勢不穩のため床
をはく事を河合さんに願つて外へ出かける。通りすがりに
山の組の大きな自動車にのりたいといふので四人をのせて
庭に出る雨あがりの心地よいお天氣。砂場に「かたまり。ぶ
らんこに「かたまり。杵のぼりにも「かたまり。となつて
遊んでゐる今一緒に連れて出た腰巾着の三人とぶらぶらし
てゐる人達を集めて山の木の下に菓籠を四枚しいておま
ごとをはじめた。「及川先生はお母様よ」と云はれるま
ゝにすわると丁度よい場所へ陣どつたどこで遊んで居る人
も皆見えてよい。豪傑のEさんもGさんもすべり臺の下の
砂場で盛に砂を掘つてゐる。

おとうさんは何雄さんよ。と誰かがいふ外の人たちも次
々とお姉様やお兄様になるそれぐに何かしてゐるすべて

の點に大人ばいT子さんは「あらおかしなことお母さんが
及川先生でおとう様はまだ幼稚園の生徒さんおほよ」と笑
ふ。誰も氣にとめない。かたばみの實をとつてきてきうり
だと出すと皆よろこんでさがしに出かける。煉瓦塀のそば
に澤山ある。そのうちに月子さんがとうもろこしとうもろ
こしともつて来る大ばこのつぼみで可愛らしいとうもろこ
しである。

まな板の上に砂と黄い母子草と交せておしやもちでたゝ
きつけて上手に久子さんはよせものをつくつた。

ぶらんこのそばで相變らずつくねんと一人で柱にもたれ
てゐるF子さんをよんで赤ちやんにした。

砂場の二豪傑が見えないのできくと自動車に乗りにいっ
たと聞いて安心した。

そのうちにMちやんがかんしやくをおこして邦彦さんに
積木をなげつけて大急ぎで冷やしてゐると珍らしく早苗さ
んが足袋はだしで泣きこんだやはり女の人とお顔のつねり
合ひ。のどかであつた庭の一隅も大さわぎにはつた。

十一時半お辨當で皆で一緒にお部屋に入つた今日はA組
で食事をした。

午後は一人のこらすお庭で遊んだ。」

五月二十五日（水）

水をとりかへた金魚は心地よさそうに八匹とも元氣よく泳いで居る。寫生したり粘土でつくつて見たりしてゐると月子さんが急に「先生金魚のお腹が切れてゐるね」とびつくりしてゐる。エラのぱくぱくうごくのに氣がついたらし。

八匹のうち一匹だけ眼の形が少しかはつてゐる。

「あの白い金魚の眼がちがふでせう」といふと「あゝちがふゝあれは出眼だよ」といふ

だんゝに幼児もふえてきたので河合先生に唱歌をはじめてもらふ

「手をのばしてもピアノにとどかないところへいらつしやゝ」唱歌のときにピアノをいたづらして仕方がないので今日で二度目のきまりそのうちに自分たちの腰をおろす位置もわかる事でせう。

大きなお日様。

今日はじめての割によく歌へる「知ていらしやるの」

「お兄さんがうたつてゐるもの」二三回つゞけて唱ふ。數人づゝ唱ひ男の子女の子と分れて唱つてゐるうちに大體唱へる様になるとG郎さんはそろゝ椅子からはなれてお部屋の中を歩き出す。

唱歌を終つて幼児は椅子を机のところへ運ぶ。

今日は幼児だけで圓をつくる男の子に缺席者が四人もあるせいかほどよい丸が出来た。

大きなお日様。

がはじめて教へられる「誰かど遠くで歌つてゐる」のふりを説明していらつしやるとかへて耳をおさへるのもゐる。かいぐり。雀の子、をはじめるとG郎さんとM夫さんは圓からはなれてふらゝと一人は梓のぼりに一人はシーソーに乗り出した。呼んでもなかくゝこない幸ひ他の人には傳染しないでつゞけてやつてゐるとそのうちに小さい組や大きい組の數人がはいつてきてさわぎ出した辛抱しかねて出てもらつた。ゆりかご、水鐵砲、おにさんこちら、ものまね、蝶々をしておしまひの合圖をするとGさんもMさんもやうやくとび出して列に入つたスキップをするのがうれしいらしい。

まだ男の人三人と女の人が二人スキップをはじめない。本校へかけつこにゆく。

テニスコートは砂利もなくころんでも安心と思つてライオンを目當にやり出した。

はじめは五人づつ同じ位の人たちをよつて走らせる。

邦彦さんや五郎さんはいつともはなまわつてゐるのでなかなか早い。和子さんだけは走らないで横で見えてゐる。源平に分けてして見た。河合さんと傳さんに立つてもらつてそのまわりを廻つてくるのである。早くからひきかへしてくる人もあれば白で居て赤の方をまわつてくる人もあり走らないで見えてゐる和子さんのところへ話しによる人などもあつて両方の遅速がなか／＼わからない、自分のはしる順番もわからないし旗を渡す人も誰に次を渡すのかもわからないその世話になか／＼いそがしい。やつとの事で白が勝つた大して喜びもしない團體の競走といふものに興味もないのであらう。

二度目にははじめよりはいくらかよい。やり方がいくらかわかつたらしい赤が勝つたのでやめた。

日頃お部屋におれば自分の席に糊ではりつけられた様に

一步も活動しないFさんや何をしてもいつもしんがりのグズ／＼のA子さんも今日のかけくらしを見てはまるで別人の様になか／＼敏捷に旗のうけ渡しもしれば駈けるのもなか／＼早くて一生懸命にやる。この人たちのよい半面もよく見られてうれしい。

幼稚園のお庭で圓木の上で休んで居るともうこの圓木が二臺の電車になつてゐた一寸も活動をやめない。どうしたのかお庭は林の組だけで靜かに遊べる。

お晝食後花壇ではらの花がぎのふからさき出したので眺めて居ると白い小さい白丁花が一面に咲いてゐる細い草に拾つてさすとなか／＼きれいだ。そばにゐる人たちにつきつぎにさしてやる。よろこんで大事さうにもつてゐる例のF江さんは「きれいでせうこしらへてあげませう」といつても、うなづきもしないこの間の彌次郎兵衛にも興味もない。だからほしくないのかもしれないと考へながら他の人のを作りつゞけてふとF江さんの方をふりかへつて見ると、片手に一ぱいに白い小さい花をにぎつてゐる。あゝよかつたとこれにさしてあげませうといふとにこ／＼して手を出した二人のいたづらさんと二人の何にもあまり興味をもたな

いこの人たちの事ばかり考へてゐる。

五月二十六日（木）

今日は早くから本校へ虫とりにゆく豫定であつたが風があまりに強いのでお話や自由畫をその前にする事にした。

天とう虫のお話

天とう虫のお話をきいてから

煙草のすきな

ぢいさんが

廣い野原の

まん中で

マツチをなくして

大きはぎ

見ればさいはひ

足もとの

草のはつばに

火がもえる

ぢいさんあはてゝ

腰まげて

煙草の雁首

もつて行きや

大事なく

火はきえて

パツととびたつ

てんとむし

眞赤なく

てんとむし

のうたをうたつてもらつた。

金魚やかたつむりやかめなどをこの前の自由畫のとときと

場所をかへておいた。

此前にもしたのものはちがつてもさつさと書き出した少し風もないだかと思つて本校へ連れてゆく。今日は八人もお休み二十二人の幼児と河合さんとで籠をさげてゆく。本校の花壇にそら豆をとつたりてんとう虫をとつたりする。幼児は大喜び。

豆は小さいけれど澤山枝についてゐる。豆ごとつて花壇の細い道で幾かたまりにもなつて豆をもぎとらせた。東京の幼児には豆を枝からもぎとるなんていふ事はなか／＼めづらしい。一人の子供はさつと豆までむき出した。お豆は出さない事にして莢だけとらせた。てんとう虫は今日は一匹も見當らない。風も強し又もうその時期でもないのかもしれない。この前きたときには麥に鈴なりについてゐたのに残念だ。そら虫の葉についてゐたあぶらむしをとつて瓶のてんとう虫に入れてやつた。もつてきた瓶がせまくなるかと心配してゐたのに一匹もふへないのはあまりにも豫定はづれ。

風はだん／＼に強くなるばかりで早くきりあげて幼稚園にかへつてきた。

お部屋の窓はあけられないし、むし／＼あつくつて幼児

たちは少しからだをもてあましてゐる。前掛をばづしてくれだとかお水がのみたいとかいふ。月子さんはねむい／＼としきりにいふので抱いてやつたがねない、ソフアーをひるげてベッドにしたが他の人たちも三人ばかりごろ／＼するので遊び出した。

午前中とつてきたお豆でお舟や彌次良兵衛を一人でつくらせたこの前にかつてきたお豆でしたときよりはとてもお豆が小さくて可愛らしいお舟である。お豆の粒も大小いろいろ／＼で、とても小さい。小豆位のも澤山ある。幼児はよろこんで手のひらにのせてゐる。

邦彦さんは、澤山むいたお豆大小十個ばかりを大きい順に列べられてある。

こないら／＼する様な日であつたが、大してけんくわもなく、げがした人もなくてかへつたのはうれしい。

幼児がかへつたあと、實習科生の方々と、來週の保育案について相談した。

五月二十七日（金）

きのふにひきかへて海軍記念日にふさはしい日本晴、五郎さんと妙子さんとに新宿驛のホームであつた。すつと一

緒にきた。

今日の豫定。

お話 三吉さん。

きりがみ てんどう虫。

お話の前に、今日の海軍記念日の事を話してもらふ事にした。『東郷大將が』と云ふと二三人の幼児達はしつてゐるしつてゐるといつた。お話がすんで硝子のコップにさしてあるひなげしの花をきり出した。今日の切り紙は、はじめの豫定では、てんとう虫だけ大きくきらせる筈であつたがきのふあたりから、花壇のひなげしが澤山にさき出したので、ひなげしとてんとう虫と一緒にきらせる事にした。

A組のきりがみ

とし子さんは「何を切るの」ときくと五郎さんは「これでしょう」とけしを指した。そして皆熱心に切り出した。邦彦さんが切れないよ／＼と叫ぶ。一寸おしへると切り出した随分熱心ではあるが、手が思ふ様に動かない。天とう虫の丸などよくきれないが、二つ目はよくきつた。葦だか葉だかわからないものを澤山作つて、花びらも八つ切つた。他のときには随分いたづらもするが、粘

土や切り紙ぬりゑなどのお仕事のときには、まるでちがふ人の様に座を一寸もたゝないで一生懸命にしてゐる。

五郎さん。初めのうちは神妙にしてゐたが、少したつと氣が散り出す。今日は靖さんがさきに遊び出したので五郎さんも眞似出した。やつと天とう虫をきつて遊びに出ていつた。

やすしさんは何かしやべりくはじめ出した。棒の様な莖と花が出来た。

敏子さんは他の人に面倒を見てゐるうちに一人でどんくきり抜く。葉はちやんとギザくをつけて非常に大きくきつた。天とう虫も脊中の黒や赤の玉までちやんと出来た。花もよく出来、莖を二本葉を數枚つぼみ一つ餘分のもは一つも切らず、てんとう虫二匹きつたそのうち「花が一枚たりなくなつた」と泣き顔をしたが直ぐ見つけた帳面にはつてあげると、花の中の花瓣だといつて又小さい花片を二つきつた。藎もつくつた藎を一つの花にはつけなかつたのできくと一だつて一つは見えないのですもの」といつた。成程と思つた。

たへ子さん、私が他の人にかまけてゐる間のろくし

てゐたので、何もしてゐないかと思つて見ると、いつの間にか眞丸の花と太い莖と先がちやんとするどくとがつてゐる葉を二枚つくり、てんとう虫の脊中の黒い點もつくつてあつた。

幸子さんは一人でずんく切出す、初め緑色で花を切つてしまつたので、赤でやり直させると、少しおこつた様なお顔をしてゐたが黙つて丸くきりぬいた。莖や葉も細いのや太いのを區別して澤山きつた。

少しむづかしいかとも思つたが相當に切れた。

いつも始めからだんくやり出せない日さんなどはそばで花はどうしませう、葉はどう蕾はどうと、次々と促してやらせる。切ると出来次第にお帳面にはりつけてやる。自分の仕事のあとが見えるのでいくらか自信も出来てきて、割合に後はすらくとする様である。にこくしなからお帳面や箱を片づけにいつた。今日は小學校で九時五十分から海軍記念日の旗行列があるので、始めをいつもよりも早くしたが案外ひまがとれて、もう十時になつた。

玄關前に皆があつまつて、小學校の運動場へ廻つてゆく。と小學生が二人こちらへくる。今からお迎へに裏門に行く

のだそうだ。私達も方向轉換すぐ裏門へと急ぐ。

門衛はくゞりを閉めて大門をひらいてゐる。ほどなく校旗を先頭に少年軍隊に「煙も見えず雲もなく」を高らかに唱ひながら入つてきた。幼稚園の人達たちはびつくりして見てゐる。延々四百餘人の長い行進がすんだので、後について小學校の運動場へいつた。うちふる國旗の波できれいな事だ。「日本帝國萬歳！」の三唱でこの催しがすんだ。

お晝食後は遊戯室に遊んで居る人が多かつたので、おとゝひのものまねをした。たぬき、ぞう、うさぎなどして見たが、うさぎのびよん／＼はねるのがうれしいのか、度々してくれと要求した。お友達もしてみた。一人のスキップをいやがる人もよろこんでしてゐる。

浩さんが急にはなじを出して手當をしてゐるうちに、自然お遊戯もおながれになつた。お部屋でねかせておくと、皆が静かにかはる／＼様子をのぞきにきて、こそ／＼に遊んで居る。おかへりの時には、すつかりよくなつて皆でそろつてお玄關に出た。

五月二十八日（土）

今日の豫定　ぬりゑ。

お遊戯。

今日は兒童が登園するのがどうしたのか大層早い。九時頃には皆揃つた。

ぬりゑを早めに始めた。土曜日はお遊戯の日になつてしかも他の組のあとからする事になつてゐる。實習科生の實習の日ではあるが、かはる／＼ゆつくりしてゐては時間がなくなるので、四つのグループとともに始めた。

この週はお豆の舟にはじまつて、ポートのぬりゑに終る様に計罫をたてゝあつたのに、どうしたのかヒヨコのぬりゑになつた途中でやめるのもおかしな事で、そのまゝつけた。誰か一人の人がまちがへて、皆がそれになつた。もつともぬりゑ帳の順からすればヒヨコではあつたが、とばしてポートと云ふ事を一寸忘れたらしい。

ぬりゑは自由畫や粘土やきりがみなどに較べて、やさしいものか幼児がすぐに手が出せる。もつともぬり方の程度によつてなか／＼樂でないものであるが、幼児の考へるのには出来ないなどといふ心配はないらしい。先生の方の求めるところなどには考へ及ばない。E子さんなど自由畫でも粘土でも何でも一寸手を出さないが、ぬりゑだけはする

ところをあけるとさつさと鉛筆をとつてぬる。そして、しかもそれが上手にする。この日だけFさんの心持も何かしたといふ氣持がある事だらう。

お遊戯は、今日は實習科生の杉山さんの指導で、ものまね、やゆりかごもだん／＼に覚えられてきたのか出来る様になつた。友だちは今日で二度目で、スキップの次の動作がすぐに出来ないで、向ひ合ふのにまご／＼してゐるうちにもう次のスキップのリズムになつてしまふ。それでも三組ばかり女の子に、ちやんと出来るのがゐる。

昭彦さんは、今日もお遊戯をしない。はじめは腰かけて見てゐたが、だん／＼窓をのぼり出したので、すつとおしまひまで傍で一緒に見てゐた。

お庭で遊んでゐるうちに、五郎さんに邦彦さんが梓のぼりの一番上で大けんくわを始めた。何でも場所のとりあひであつたらしい。兩方ともみ／＼づばれが出来た。五郎さんの方はすぐに機嫌がよくなつたが、片方はなかく泣きつけてゐる。泣いてる邦彦さんを相手に、朝顔にあぶらかすをやる事にした。二週間ほど前に花壇のまわりに澤山時いた種が二葉を出した。

土曜日は幼稚園の時間も少いので、妹や弟を連れて朝からお歸りまで居る人も澤山あつて、幼稚園のお庭など市内の小公園の子供の遊び場の様に思はれる時もあるが、今日は天氣もはつきりしなかつたせいか、遊びにくる人も少くてよかつた。幼稚園には大人の數の多いほど目ざはりのするものはない。

唱歌や遊戯のあつた日には、いつでもあとでいろ／＼と考へさせられる。

遊戯のときにちつともしないで、始めから腰をおちつけてゐる人や遊戯の途中、ひよこ／＼ぬけ出して別の遊びを始める人や、お友達にいたづらばかりをしかける人などがあつて、遊戯そのものをさせるよりも、その人たちを皆の遊戯の仲間に入れるのにほと／＼骨がおれる。

唱歌のときもそうである。はじめのほんのしばらくの間は、皆で一緒にうたつてゐるけれども、すぐに話が始まる、けんくわを始める、だん／＼と席を立つてゐつて黒板にいたづらをはじめ、外の遊びをするといふ様で、おちついて始めからお終ひまで唱つてゐるのはごく少數の幼児である。もつとも大きい組になるにつれて、お友達お互の

制裁とでも云はるか、お友達から何か云はれる事をおそれて、ちゃんとしてゐる人や、又靜かに唱つたり皆と一緒に遊戯をするものとあきらめて、ちゃんとしてゐるものもある様である。女の子は唱歌や遊戯がすきでさわいだり、ふざけたりするものはほとんどないけれど。この唱歌や遊戯に一寸も興味をもたない人たちを、どんなにすればよいかといふのにいつも考へさせられる。

丁度五月六日お節句のあくる日に、倉橋先生から大層よいお話を伺つて、何だかゆくべき道がわかつた様な氣がする。唱歌を子供が唱ふときに、その子供が全體の一人として唱ひ方も並はづれて大きな聲や、變な調子はづれの聲を出したり、その態度が唱歌を唱つてゐるといふ態度でないといふのは、その子一人といふものをよくするといふよりは、全體のコーラスといふものをきづつけるといふ事がよくない事であるから、唱歌といふものをよく皆で唱ふ様にしたい。(上手といふよりも)

一人々々の子供が唱歌を上手に唱へる様にするといふ事も大切な事には相違はないが、幼稚園ではそれよりも全體の一人として全體を損はない様にしたいものである。

きのふの節句の集りにでも皆が歌つてゐるのに、ある子供だけが一人椅子からはなれないで腰かけてゐる。そんなことはその子供としてよくない子である。兵隊さんが足並を揃へて歩いてゐる事は、簡單なことであるがそこに全體がそろつてゐるといふ事が一つの快感を感じるのであつてそのうち一人の人が足並をくづして歩いてゐて平氣でおられる様ではこまつたものである。幼児でもそれと同じく自分だけが人並ちがつた事をしてゐて、平氣でおられる様ではこまる。こんなことが家庭教育の補ひを幼稚園がするのに充分出来るところであつて、一人や二人の子供だけ見てゐる母親なり、父親はその子供たちを大勢のうちの一人としてどんなに皆と調和した生活をしてゐるかは知らないのである。といふ様な意味のお話をしていただいた。

唱歌のときに唱はない子供や、お遊戯をしないでいつも腰ばかりかけて見てゐる子供の事はいつも氣になつてゐてあせつて見たり、又そのまゝにしておいたりしてゐた。こんなお話を先生から伺ふと尙さら氣になる人達が可愛想でたまらない。何うか努力して早く皆の仲間に入れてやりたものである。